



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/2 (月)	+ 800	▲ 14,800	▲ 14,000	国庫短期証券 発行・償還(3M) 国債発行・償還 (2Y)			米：ISM製造業景況指数(7月)
8/3 (火)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				日：東京CPI(7月)
8/4 (水)	トン	▲ 85,000	▲ 85,000	税・保険揚げ 国債発行(10年)	共通担保 (全) ▲ 4,000		米：ISM非製造業総合景況指数(7月)
8/5 (木)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000				欧：英中銀 政策金利発表 欧：ECB経済報告 米：貿易収支(6月)
8/6 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	物価連動債発行			日：景気先行CI指数(6月) 米：雇用統計(7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初533兆9,800億円から始まった。その後は27日に新型コロナ対応金融支援特別オペ、28日の国庫短期証券の買入オペ、29日の国債買入オペ等により、537兆2,300億円まで増加した。週末の30日は、538兆8,800億円まで増加し、越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、4連休明けの26日は前営業日比横ばいの△0.038%から始まった。27～29日はビッドサイドの一部で調達を控える動きもあり、△0.038%～△0.043%と緩やかな低下基調で推移した。週末三日積みの30日についてもビッドサイドの動きに大きな変化はなく、前営業日比△0.001%の△0.044%で越週した。

ターム物は、1W～2W物を中心に、主に△0.040%～△0.015%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で3日に東京都区部CPI (7月) の公表、6日に景気先行CI指数の公表が予定されており、海外では5日に英中銀の政策金利発表・ECB経済報告の公表、6日には米雇用統計 (7月) の公表が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

<レポ>

足許GC取引は週初△0.09%近辺の出合い。27日の取引では短期買入オペがオファーされたものの、△0.08%台が出合いの中心となり、週末まで同水準で推移して越週した。SC取引は2年409～426回債、5年144～148回債、10年333～363回債、20年163～177回債、30年69～71回債、40年9～14回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,400億円で、週間償還額 (約1兆円) を上回った。月末日の大量発行と電気業や鉄鋼業等の大型案件が実施され、活況となった。発行残高は先週末の24兆7,709億円から、29日時点で25兆886億円に増加した。発行レートは、投資家の旺盛な運用ニーズに変わりなく、希少銘柄等においては強いマイナスレートでの出合いも見られた。27日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.013%・平均落札レート△0.009%と前回 (按分レート△0.012%・平均落札レート△0.005%) 比で低下した。

来週の週間償還額は、約1,800億円程度となっている。発行市場は、週前半は、夏季休暇前の前倒し発行もあり発行増が予想されるが、後半はスタートが夏季休暇にかかるため落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄等では、今週同様強いマイナスレートでの出合いを予想する。

<TDB>

7月30日の3M1012回債(2021年11月2日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1022% (前回債△0.1042%)、平均落札利回り△0.1062% (△0.1098%)。来週は5日に6M、6日に3Mの入札がある。